

平成29年度実践的安全教育総合支援事業成果報告書

学校名：岩手県立盛岡峰南高等支援学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

- ・万が一の災害に備えること、災害時に自ら判断して主体的に行動する力の育成を目指して体験的・実践的な学習に取り組んだ。
- ・東日本大震災を忘れないよう被災地の見学を行った。

II 取組の概要

(1) 防災避難訓練の実施（全校3回）

地震、火災、J アラートへの対応訓練を各1回ずつ実施した。避難時の留意事項や避難経路などについて学習した。

J アラートへの対応訓練では生徒会執行部も職員と一緒に企画運営を行った。

(2) 防災体験セミナー

ア 岩手県立総合防災センターでの防災体験コース受講（1学年）

災害時及び日頃の防災の心構えについて講義と暗闇体験や簡易ろうそく作成などの体験学習を行った。

イ 岩手県立総合防災センターでの応急処置コース受講（2学年）

心肺蘇生法、AED の使用方法、止血方法など応急処置について学んだ。



(3) 防災学習

ア 災害発生時の対応について（3学年）

(ア) 映像で災害を振り返り、身近な災害や危険について学習した。

(イ) 災害用伝言ダイヤルの活用方法を復習した。また、災害時の集合場所等について各生徒が家族と確認しプリントにまとめた。

イ 非常時の対応について（3学年）

(ア) 発電機の操作方法について実際に体験した。

(イ) 電子ライターや木っ端、新聞紙などを利用して火起こしを行った。その火でお湯を沸かしアルファ米を調理して試食した。



ウ 災害への備えについて（2学年）

(ア) ライフラインが止まった時の対処について日頃の備えなど家族で実践していることを持ち寄り、話し合いを行った。

(イ) 各個人の iPad を活用し、いざという時のサポートブックである防災アプリ『まもるリュック』を作成した。

(4) 被災地（陸前高田市）見学（1学年）

ア 被災地でのボランティア活動

モビリア仮設住宅を訪れ、除草活動を行った。



イ 震災遺構の見学

雇用促進住宅、道の駅 45、奇跡の一本松、気仙中学校旧校舎の4カ所を訪れた。

(5) 復興学習報告会（全校）

各学年の取組を報告し合い、学習内容を共有した。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- どの取組においても事前事後学習を行ったことで生徒の防災に対する心構えや災害時の行動について意識が高まった。生徒の変容については事後学習によって確認することができた。
- 自宅から離れて生活している寄宿舎生も多いので、災害発生時の行動について家族と確認する機会をしっかりと設けたことは重要であった。
- 企画運営、評価などに生徒が携わって計画した避難訓練を実施したことで、パターン化したものではない避難訓練を実施することができた。

2 課題

- 防災宿泊学習（被災地でのボランティア活動）が台風のため実施できなかった。学習内容を変更して防災学習に取り組むことはできたが、計画していた内容の学習はできなかった。昨年度も同じような状況があったので、計画そのものの見直しを考える必要がある。
- 評価を数値化して表す取組が不足していた。評価指標を明確にしておきたい。